

株式会社ファミリーマート 御中

ベトナム社会主義共和国
ホーチミン市における貧困区での
災害に強いコミュニティづくりプロジェクト

第2四半期報告書



2014年11月
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

 **Save the Children**
JAPAN

1. 事業概要

事業名	ホーチミン市における貧困区での 災害に強いコミュニティづくりプロジェクト
対象国・地域	ベトナム ホーチミン市 ニャーベー区、カンザオ区
事業期間	2014年5月1日～2015年4月30日
報告期間	2014年8月1日～2014年10月30日
予算	6,250,000円
受益者	5歳～14歳の子ども2,300名及び5,000名の地域住民
事業目的	学校及びコミュニティの防災知識と気候変動への適応能力を向上し、子どもと地域住民の自然災害への耐久・回復能力を向上させる。

2. 活動進捗

活動 1. 生徒と教師の防災意識向上による安全な学校づくり

1-1. 学校及びコミュニティへの防災ガイドブックやマニュアルの配布

2014年7月より学校の防災教育で使用する防災ガイドブック及びフリップチャート教材の作成を開始、9月に完成しました。防災／DRRガイドブック、気候変動／CCAガイドブック、フリップチャートの3種を各50冊印刷し、合計150冊を全対象校に配布しました。子どもが理解しやすいようゲームやクイズ等がそれぞれに盛り込んであり、各学校で先生が子どもに防災及び気候変動の知識を教えるための指導マニュアル、教材として活用されます。2種のガイドブックには防災及び気候変動の定義や災害にどのように備えるか等の基本的な知識が盛り込まれています。一方、フリップチャート教材は、それらガイドブックの補完教材として、絵や写真でその基礎知識の理解を助けるように構成されています。ガイドブックやフリップチャート教材は、ベトナムの防災ワーキンググループに加入する国際援助団体が使用している、教育訓練省から既に承認を受けているものを基にし、それを当事業対象地域において想定される自然災害（主に台風、洪水被害）に合わせて改善しました。

1-2. 教員への安全な学校モデル及び救命救急研修の実施

2014年8月、ニャーベー区及びカンザオ区双方において、学校教員及び校長、教育訓練局の行政官を対象に、安全な学校モデルと救命救急に関する研修を行いました。研修には合計50人が参加し、安全な学校モデルの定義といった知識、人工呼吸の方法やライフベストの装着方法などの実践的スキルを学びました。詳細な研修内容は以下の通りです。

① 安全な学校モデル

安全な学校を考える上で、まずは各学校の先生が、自らの学校を、危険、脆弱さ、リスク、キャパシティー（対応能力）の4つの項目について、参加型で分析しました。キャパシティーの中では、「虫や小動物など、災害を予知するものを参考にする」といった伝統知識の

存在も確認され、それらを子どもにも伝えていくことの大切さも認識されました。また、この他にも年間を通じた災害カレンダーや、災害種類の洗い出しも行われ、当事業対象地域では水害だけでなく、毎年干ばつにも見舞われていることが新たに分かりました。

② 救命救急研修

赤十字からトレーナーを招き、人命救助の手法（人工呼吸、けが人の救助方法等）及びライフベストの装着方法、緊急時の避難誘導の仕方等に関して学びました。人形を用いた人工呼吸では最初は躊躇していた教員たちも、一人ひとりトレーナーの指導の下、実技を行い、全ての先生たちが人命救助の基礎を身に付けることができました。また、多くの教員はライフベストを目にしたことはあっても実際に装着した経験はなく、「緊急時に子どもにも適切に装着できるように」と皆、真剣に実技に取り組みました。

活動2. コミュニティにおける災害対応及び気候変動適応能力強化

2-1. 災害対応能力アセスメント（事前調査）の実施

2014年9月、災害対応能力のアセスメント（調査）を実施しました。それぞれの対象郡における気候変動の影響を洗い出し、それに適応するためにはどのような新しい生計手段が考えられるのか、その可能性を探りました。アセスメントには16人の子どもも含む計86人が参加し、雨の降り出し時期の変化や洪水時に水が引くスピード等、子どもの観察力もアセスメントに活かされました。また、アセスメントを通じて、ニャーベー区では気候変動以外にも近隣にできた靴の製造工場の排水の影響により川や池が汚染され、これまで生活の糧であった魚が獲れなくなった事も確認されました。

2-2. 災害に強い作物の試験的導入及び農林業への気候変動影響調査の実施

漁業や農業は、気候変動の影響、災害の際に被害を受けやすく、さらに復興に資金と時間を要すことから、これらのみに依存する生業は必ずしも望ましいとは言えません。一方、ヤギは病気に強く、且つ主に雑草を餌とすることから飼育に費用がかからないため、村人の投資が少なく済むという大きなメリットがあります。また、ヤギ肉はマーケットでも豚肉と同様に人気が高いことから、現金収入につながる可能性も高く、当事業地域においてもヤギ飼育導入を検討しています。検討を進める上で、2-1のアセスメントの枠組みの一つとして、当事業対象地域のコミューン自治体リーダーが災害の影響を避けるために漁業や農業からヤギ飼育への転換を図ったコミューンの視察を行いました。

3. 現在の課題および変更点

■活動の遅延

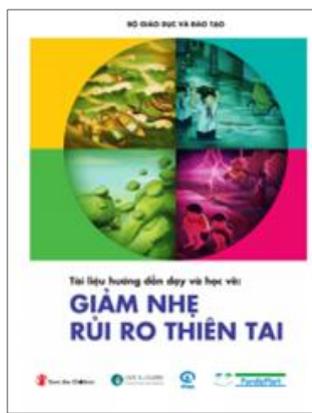
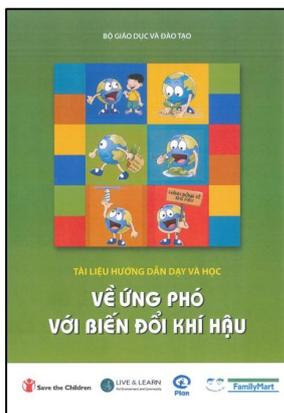
当事業は5月開始であり、事業開始直後の6月～8月がベトナムの学校の夏季休暇にあたるため、教員や生徒等を巻き込み学校の枠組みで行う活動は実質9月に延期しなければなり



災害対応能力アセスメントでは村で気候変動の影響を受けどのような変化が起きているかの洗い出しを行った。



アセスメントに参加した子どもは、子ども目線で起きている変化を絵に表し、発表した。



今四半期で作成及び配布を完了した気候変動ガイドブック、防災ガイドブック、フリップチャート（左から）。

以上